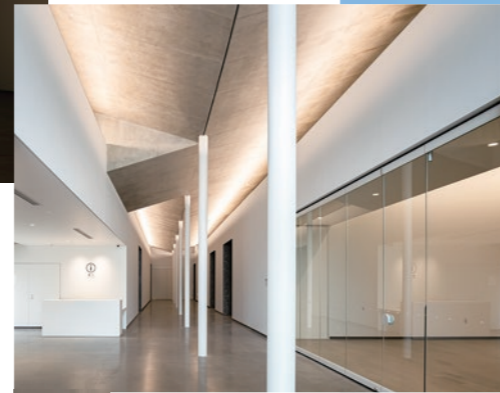
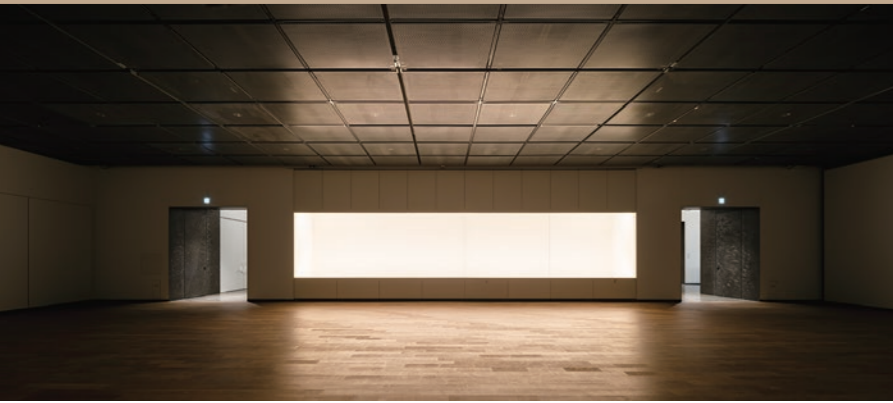


栃木市立美術館 Tochigi City Art Museum

11月3日(木・祝)開館



展示室 A



ロビー

展示室 A・B

市ゆかりの美術工芸作家や国内外の著名な作家・作品等の企画展示を行います。備え付けられたガラスケース（展示室 A 幅約 10m・展示室 B 幅約 8m）には、高透過ガラスを使用しており、作品を明瞭にご覧頂くことができます。また、ケース内の照明は照度や色温度が調整可能となっており、作品にあった雰囲気演出することができます。展示室内には、可動式の壁を 6 枚設置しているため、展示の企画によって室内のレイアウトを自由に変えることも可能です。

展示室 C

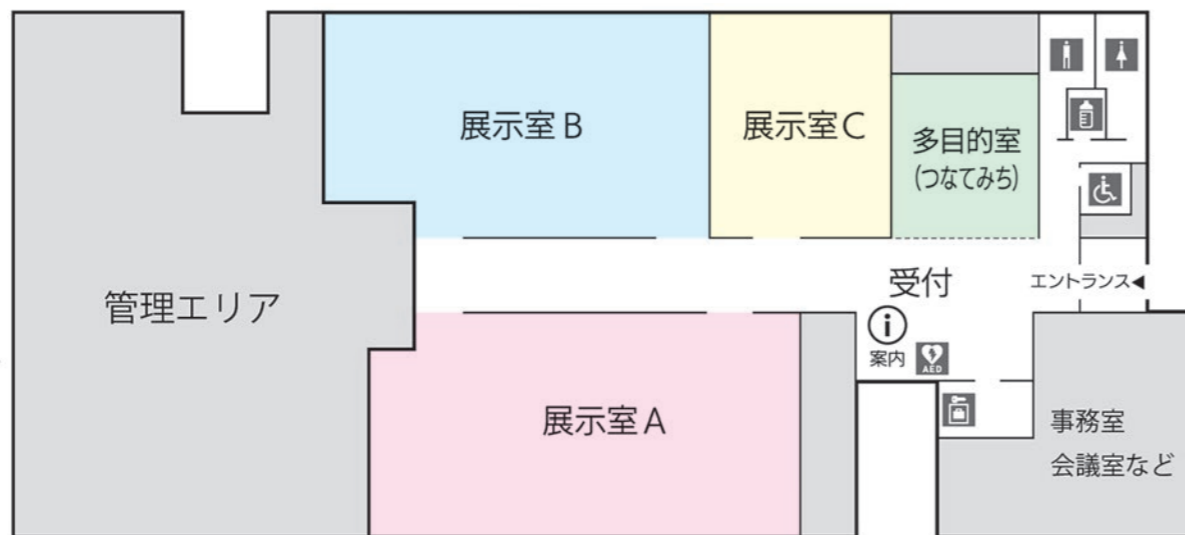
主に収蔵品の展示を行います。備え付けガラスケースは館内で最も広く、幅は約 11m あります。旧とちぎ蔵の街美術館ではスペースの関係で展示することができなかった、六曲一双（幅約 6m の屏風）を展示することが可能となりました。大規模な企画展の際は展示室 A・B と併せて使用します。展示室 C は、白を基調とした他の展示室と異なり、「蔵」をイメージさせる重厚感のあるつくりとなっています。

多目的室 (つなてみち)

講演会やワークショップなどの教育普及活動を行います。一面がガラスのスライディングウォールになっており、中の様子が廊下からわかるようになっています。

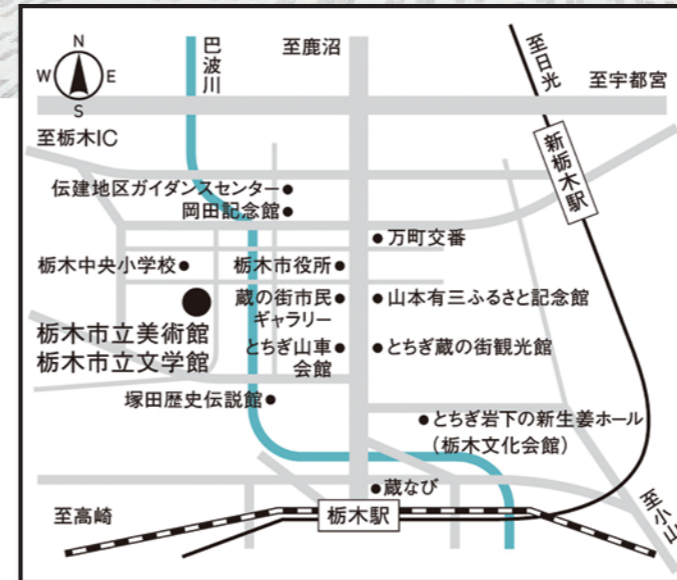
「つなてみち」という愛称について 巴波川沿いの「綱手道」が由来となっています。綱手道とは美術館の近くを流れる巴波川に沿って作られた曳道のことを指します。本市は、江戸時代初期から明治時代前半にかけて

巴波川の舟運によって栄えてきました。当時の巴波川は流れが速かったため、綱手道から麻綱を使って舟を河岸へと曳いたと言われています。多目的室では、皆さんを美術館へみちびくためのイベント等を行います。美術館に興味を持ってもらうために行われる活動が、舟を河岸へとみちびくために、多くの人々が協力して麻綱を曳いた綱手道と重なることから、「つなてみち」という愛称を付け、皆さんに親しみを持っていただけるようにひらがな表記としました。



フロアマップ

- ♂ 男子トイレ
- ♀ 女子トイレ
- ♿ パリアフリートイレ
- 授乳室
- AED
- ロッカー



問合先 栃木市立美術館 ☎ (25) 5300
住所：栃木市入舟町7-26

栃木市立美術館は、旧栃木市役所跡地に11月3日(木・祝)に開館します。喜多川歌麿をはじめ、明治以降に活躍した橋本邦助、清水登之、刑部人、鈴木賢二、田中一村らの絵画や二代飯塚鳳齋、飯塚琅玕齋らの竹工芸など、市ゆかりの作家たちの作品を収蔵してあります。これらの作品を収蔵品展で紹介するとともに、旧とちぎ蔵の街美術館の約3倍の面積となった展示室(670㎡)を用いて、企画展を開催し国内外の優れた作家の作品を展覧します。

開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日に振替)
祝日の翌日(土・日・祝日の場合は開館)
年末年始(12月29日～1月3日)
展示替えのための整理期間

観覧料 展覧会により異なります

美術館・文学館公式HP、SNSで最新情報を随時発信中

HP Twitter Facebook Instagram